

【気象概況】

令和元年10月台風19号の被災状況

令和2年5月22日

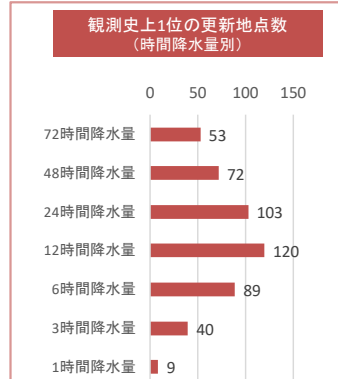
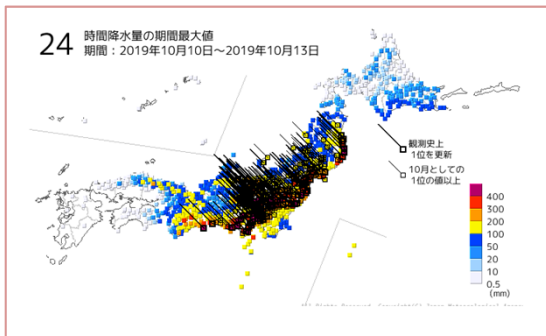
豊橋河川事務所

令和元年10月台風19号の被災状況

令和元年10月台風第19号の特徴(降雨)

- 接近・通過に伴い、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮となった。
- 10日から13日までの総降水量が、神奈川県箱根で1000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えた。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。
- 降水量について、6時間降水量は89地点、12時間降水量は120地点、24時間降水量は103地点、48時間降水量は72地点で観測史上1位を更新した。

※全国の気象観測地点は約1,300地点



※気象庁ウェブサイトより作成(特定期間の気象データ;2019年10月10日～2019年10月13日(令和元年台風第19号による大雨と暴風)) ※数値は速報値であり、今後変更となる場合がある。

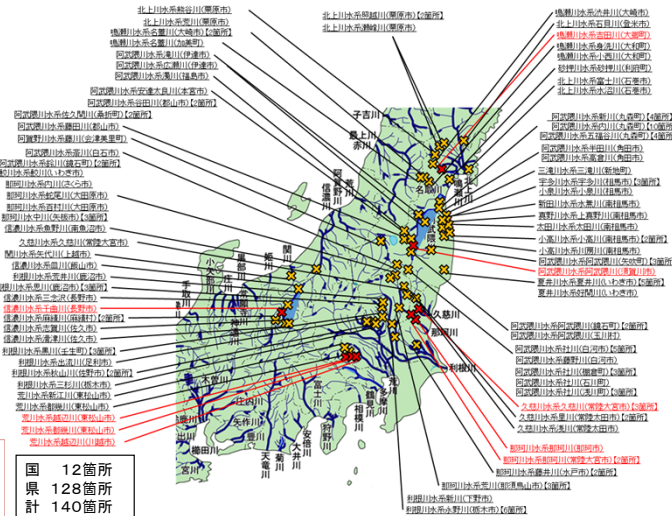
台風第19号の影響による河川の被害状況(決壊発生箇所)

【国管理河川】

堤防決壊12箇所
10月20日に12箇所全ての仮堤防が完成。うち9箇所の補強工事が完成
引き続き、仮堤防の被覆等の補強工事を24時間体制で実施中。

【県管理河川】

堤防決壊128箇所
128箇所緊急復旧に着手済み。
うち125箇所の仮堤防が完成
36箇所直轄権限代行。



TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の活動状況

- 激甚災害の早期指定を目指し、全国の地方整備局等からTEC-FORCEを広域派遣した。
- 平時の業務で培った技術力を活かし、自治体所管の公共土木施設について被災自治体になりかわり、調査、対策工法の検討等を実施し、被害規模の迅速な把握に貢献した。
- 排水ポンプ車、衛星通信車など、自治体が保有しない高度な災害対策機械を全国から集結させ被災地に投入し、迅速な排水活動などにより自衛隊、警察、消防の捜索、救助活動の支援も実施した。【11月1日現在 約700人派遣中(のべ約13,800人)】

①地域のニーズを把握

市町村へのリエゾン派遣



- ・被害状況や支援ニーズの把握
- ・首長の片腕となり対応方針助言

②被災状況の迅速な調査

防災ヘリコプターでの広域調査



- ・全国8機の防災ヘリがリアルタイムに被害を把握

被災状況の把握



- ・難易度の高い現場でも的確に調査・工法検討

③高度な災害対策機械力の活用

排水ポンプ車による緊急排水



- ・全国の排水ポンプ車を集結、浸水を迅速に排除

④所管研究所等による高度な技術力による支援

自治体への技術指導



- ・現場の危険度や状況に応じた工法、対応方針等を助言

台風第19号で顕在化した新たな課題等

戦後の水災害の頻発に対する事前防災対策として整備してきたインフラが大きな効果を発揮した一方、新たな課題も顕在化した。

- ◆ **決壊等による甚大な浸水被害** ◆
【課題】人命を守るとともに壊滅的な社会経済的被害の回避

- ◆ **内水氾濫、決壊等による氾濫水** ◆
【課題】都市部等の浸水を軽減するための雨水貯留機能の強化
氾濫水をより早期に解消するための排水機能の強化

- ◆ **避難等につながる情報の提要、事前のリスク周知** ◆
【課題】避難等につながる水位情報等の情報提供システムの強化
国土・土地利用の見直しや、ハザードマップなどのソフト対策の加速化・拡充